

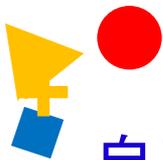


2018/8/25(土)10:50~11:50

第22回日本看護管理学会学術集会 教育講演3

多様性に寛容な社会と職場を目指して

宮子 あずさ



自己紹介



1987年から約30年看護師として勤務

～2009年 東京厚生年金病院（現・JCHO東京新宿MC）…22年

内科病棟9年 精神科病棟13年（緩和ケア病棟兼務約5年）／看護師長歴7年

2009年～ 精神科病院訪問看護室…9年

看護師として働きつつ著述、研究も行う

大学中退後看護専門学校卒業。勤務しつつ大学通信教育で学ぶ
東京女子医科大学博士後期課程修了。博士（看護学）取得
母が著述業（吉武輝子）。10歳頃から著述の機会に恵まれた

看護師としての自分は、元々の自分よりも「くそまじめ」

融通が利かない、「こうあらねば」、軍隊的 ↔ 寛容、柔軟

看護師は「くそまじめ」になりやすい仕事である

➡ 臨床の特徴から考えてみる



臨床の難しさが不寛容な組織・個人を作る

1. 予後が不確定な中で、緊急性のある選択が求められる
2. 生命に関わる極限の状況で、理性的な判断が求められる
3. 高い倫理性が求められ、倫理的葛藤が生じやすい
4. 完全治癒など、誰もが望む最高の状態は、容易に選択できない
5. 経済原理が働かせてはならず、優先度がつけにくい
6. しばしば、強く感情が揺さぶられる



画一化、均一化、個の抑圧

マニュアル、階級社会、規則、「らしさ」、制服……

即決、組織防衛、個人を守る





対象となる患者・利用者は基本的に不寛容

矛盾を受け入れられない患者の思考の歪み

公正世界信念：世界は突然の不運に見舞われることのない、公正で安全な場所である

➡ 悪い奴がいるから悪いことが起こる（陰謀論）

自分の価値観への固執

男尊女卑、セクハラ、パワハラ

➡ 看護師は受け身。相手の価値観を否定できず、ノーと言えない
「患者に寄り添う」「陰性感情は御法度」の呪縛

お互いの「その人らしさ」を解放するには……
寛容性は、相互的なもの。一方だけが譲歩するものではない
患者・利用者に対するだけでなく、看護師同士の寛容性も大切





多様性を認め、寛容であるための工夫

自分が普通と考えない

自分と同じように考えることを求めない

合わない人と働く時は、目標を合わせ、やり方は任せる

同意と理解を混同しない

同意できなくとも、理解する努力はする

理解させれば同意が得られると思わない

相手の気持ちを決めつけない

「あなたのため」は自分のため

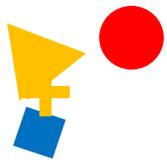
立場が似ていても、ひとりひとり違う

好き嫌いを正義の問題にすり替えない

嫌いな人は邪悪に見える

「嫌い」を認めてつきあう（「さりげなく嫌い合う」中島義道）





その人らしく働く看護師が、
患者さんのその人らしさを大事にできる

ご静聴ありがとうございました

ご質問・ご感想は……

miyako@peace.zaq.jpまで！

「ほんわか博士生活」更新中

